

原文

平治の乱について誤解するおそれのある表現である。

乱後、後白河上皇が配分した恩賞に不満をもった義朝は、
院政 1158~79, 80~92
 上皇の近臣藤原信頼とむすんで、1159（平治元）年、清盛
1133~59
 が熊野参詣に出た留守をねらって兵をあげた。上皇を幽閉し、
 清盛と親しい藤原通憲（信西）を討ったが、清盛の反撃にあ
？~1159
 い、義朝は東国へ逃れる途中、尾張国で殺された（平治の乱）。
 この結果、義朝の子の源頼朝は伊豆国に流され、源氏の勢力は
 おとろえた。

保元の乱は、貴族内部の争いに武士が利用されたのに対して、
 平治の乱は、武士団の対立が原因でともに都みやこでおきた戦乱で
 あった。戦乱の結果、武士の政治力が強まり、武家政権樹立へ
 の道が開かれることになった。

修正文

乱後、後白河上皇の信任が厚い院の近臣の藤原通憲（信西）が、
院政 1158~79, 80~92
？~1159
 保元の乱のさいに助勢をたのんだ平清盛とむすんで権勢をほこった。
 これに不満をもつ同じ院の近臣の藤原信頼は、清盛と対立していた
1133~59
 源義朝とむすび、1159（平治元）年、清盛が熊野参詣に出た留守を
 ねらって兵をあげ、通憲を自殺に追いこみ、上皇を幽閉した。しか
 し、清盛の反撃にあって敗北し、義朝の子源頼朝は伊豆に流され、
1147~99
 源氏の勢力が一時おとろえることになった（平治の乱）。

保元の乱で貴族の争いに利用された武士は、平治の乱では彼らの
 対立が戦乱の原因の一つになるほどとなった。この結果、武士はい
 ちだんと政治力を高め、武家政権樹立への道が開かれることになっ
 た。